

駅伝は面白い。日本人が作り出した、マラソン競技のリレーバードジョンだ。それを踏まえて……。

「スーパー駅伝マラソン」をやろう！ 100メートル走のリレー形式駅伝なのだ！ 無理やり例えると、カール・ルイスの連続だ。距離はフルマラソンの42・195キロ。

ルールはいたって簡単。選手は1人ずつ100メートルを疾走する。そしてバトンを次の走者に渡す。

どうです？ 見たいでしょ。通常のマラソンと比べると、かなり速い記録が出るんじゃないかな。

どこでやるか。100メートル走なんだから、直線じゃなきゃいけない。そんな直線は狭い日本に無いなあ……と書いていたら、あった！

北海道に約30キロの直線道路がある。札幌と旭川の間にはズドンと通っている。さあ、皆さん想像してみて下さい。30キロもあるなら、地球の丸みを感じるよ。よし、足りない約12キロはなんとかしよう。

さて次に、1チームには何人の選手が必要なんだ？ 1キロで10人だから……422人！ 422人のスプリンターが全力疾走でバトンをつないでいくのだ。

タイムはどれくらいになるんだろう？ 例えばカール・ルイス

が422人走ったとしてみると……1時間10分くらい！ 実際は、こんな記録は夢なのかもしれないけど、これはやるしかないでしょう。

まずは、有志のリレーをやろう。そして、次は都道府県別の対抗リレーだ。これは、選手の移動だけで一大イベントだ。それが成功したら、最終的には世界大会。この大会で、人類がバトンをつないでいく最も速いタイムが分かる。私たちが自分たちの力だけで、どれだけ速く、手紙などモノを運ぶことができるのかを知る大会になる。

うーん見たい。確かに見たい。でもね皆さん、ぜひ参加しましょうよ。年齢別選手権も出来るかも。私は？ もちろん出たい！

【朝日新聞・マリオン】

2007年1月10日掲載